

☆ こんごうせき ☆

八代市立
金剛小学校
学校だより
5月16日

心を開くアプローチ ピグマリオン効果

人にかかわり、人を育て、人を支援する役割を担っている者にとって、ある意味もっとも大切な能力は、本人の可能性を信じる能力だと言える。必ずよくなる、必ず乗り越えられると信じてかかわる者は、実際に良い結果を生み出しやすいのである。

逆に最悪なのは、信じるよりも疑い、評価するよりも否定し、どうせ変わるはずがないと心のなかで見捨てて、本人をさげすんでいる人にかかわられた場合である。

対話において、このことは非常に重要である。相手に対する敬意をもち、相手のなかにある可能性を信じ、その長所に目を注いで向い合う人である場合は、そこから良い関係が生まれやすいのである。

人を良い方向に変えていく達人に共通するのは、ネガティブな先入観を一切捨てて、真白な白紙の状態でその人に接しようとすることである。

そして、良いところを見つけて、あなたはとても良いところをもっていると、繰り返し言い続ける。言い続けるだけでなく、その人が良い方向に変化することを信じ続ける。すると本当に、そうした変化が起きるのである。

評価は、それを信じることによって力となる。その力は非常に強力で、評価がほとんど根拠のないものであっても、大きな効果を及ぼすことが知られている。ピグマリオン効果と呼ばれるものだ。

「見込みがある」と本人や周囲が信じたことによって、実際によい結果がもたらされる。それを実現させる力をもっているのである。



音読のすすめ

ブドウをむきながら 安永尚子(30)主婦、熊本市

1歳の娘は、果物の中でとりわけブドウが好きだ。果物もつまみにしてしまふ飲んべえの私は、将来一緒にワインを楽しめたらいいな、娘の生まれ年のワインでも購入しておこうかななどと、勝手に気の早い楽しみをつくらしている。

娘が昼寝をしている間、おやつにブドウを

おんなの日

むきながら、独身時代の独り暮らしの生活を思い出していた。私はかなりのものぐさで、当時はバナナ以外の果物をむいて食べることはほとんどなかったと思う。実を言えば、料理も結婚してから実地訓練で一つずつ覚えているので、夫には少なからず迷惑をかけた。

そんな私が、他者のために果物をむいている。ブドウの皮は薄ければ薄いほどむきにくい。自分で食べるのであれば、皮ごと食べてしまうところだが、娘のために、ちまちまちまむいている。

私は恐らく初めて「自分は人の親になったのか」としみじみ実感した。母親とは、なるほどこういうものか。そうだ、妊娠、授乳期と飲酒を自制し、朝早くから緑黄色野菜をゆで、つぶし、刻んで娘の食事を作り、こうして果物を一つ一つむいている。

生活習慣やものぐさなどは、育児という嵐になぎ倒されてしまった。親になるとはこういうことなのかと、妙に納得できた午後であった。